

# 資料 4

## 特別委員会からの御意見の反映状況等 【H29.2.10第4回総合計画検討特別委員会】

これまでの審議会での審議内容を踏まえた現段階での本市の見解。  
→第5回特別委員会(H29.4.13予定)で報告予定。

No.	区分	委員 【※】審 議会資 料では 非公表	御意見の要旨	基本構想(素案)【H29.4.5版】への反映状況等		備考
					反映箇所	
1	基本構想 全体	足立 委員	基本構想も含めてPDCAサイクルにかかるためには、一定の目標設定をして具体的にイメージを書きおかないと、チェックの段階でかなり重要なポイントになる。大綱7は具体的に書かれていて方向性は明確にされていると思うが、その他の大綱についてはどうなのかもう一度検討いただきたい。福祉・健康の分野で「高齢者や障がい者をはじめ、だれもが住み慣れた…」という記述自体は理想でいいが、個別具体となったときに、例えば、自宅で住み続けることが理想なのか、地域にたくさん高齢者の施設を作っていくことが理想なのか、という一定の政策判断の基準となるものが総合計画の大綱だと思う。 具体性の記述という点では、P14「都市空間」について、都市間・拠点市街地間のネットワーク形成について記載があるが、例えば近隣都市とのネットワークをどうつくっていくのかをもう少し書かないと、それができているのか判断しづらい。	施策の大綱については、各分野の今後の大きな方向性を示し、大綱ごとのより細かい分野の方向性や施策については、基本計画において取りまとめることを予定しています。基本計画では、毎年の行政評価により施策評価が可能となるような施策体系や指標設定について検討します。	—	
2		馬場 委員	「吹田ブランド」の記載がない。総合計画に載せることで市民周知も図られていく側面もあると考えられるので、再検討をお願いしたい。	「市民にとってのわかりやすさを考えるのであれば、「吹田ブランド」という文言は入れるべきではない」(第4回審議会)という御意見を踏まえ、修正等は行っていません。	—	
3		五十 川 委員	総合計画における「市民」の定義については、吹田市自治基本条例第3条の規定のとおりということだが、参考用語集などで「市民」の定義の解説を明記すべき。	吹田市自治基本条例における「市民」の定義がわかるよう、「I.策定の趣旨」の本文中に文章を追加します。	P.2 「I.策定の趣旨」第3段落	

No.	区分	委員 【※】審 議会資 料では 非公表	御意見の要旨	基本構想(素案)【H29.4.5版】への反映状況等		備考
					反映箇所	
4	将来像	足立委員	将来像において、現状で見えている課題の問題提起がされているものの、課題に対してどのように立ち向かっていくかが一切書かれておらず、それに基づいた施策展開という流れにつながらない。これを市民が読んで、本当に吹田市の将来像を描けていると思うか。課題に対して、吹田市はこう取り組みますということを書くべきではないか、再度検討をお願いしたい。	将来像については、様々な課題や市民意識調査等の分析を踏まえ、本市が今後目指すべき方向性についてまとめています。将来像を実現するために必要な施策については、基本計画等で検討します。	—	
5		上垣委員	将来像の4段目に「市民1人ひとりが尊重され活躍できる環境」と、「活躍できる」という言葉が残っている。大綱1では「活躍しなければならないか、とプレッシャーを与えてしまう」という意見を踏まえ、「活躍」を削除している。活躍しようと思う人は活躍できる環境だろうし、誰もが活躍したいと思っているかどうかもわからない。「市民1人ひとりが尊重される環境」の中に全部含まれるのではないかと思うので、議論いただきたい。	「市民1人ひとりが尊重され活躍できる環境」の「活躍できる」という文言については、大綱1での議論と同様に考えるものである」（第4回審議会）という御意見を踏まえ、「活躍できる」の文言を削除します。	P.12 「1.将来像」 第4段落	
6	人口	五十川委員	「吹田市第4次総合計画策定に係る人口推計について（案）」で、65歳以上の単身世帯が高いなど高齢化社会に焦点が置かれています。将来世代にわたって負担増が見込まれるところなので、負担増の緩和も促していくかなどの点にも触れていただきたい。	高齢化の進展などによる影響は分野によって様々であるため、今後必要となる取組などについては基本計画等で検討します。	—	
7	都市空間の将来像	野田委員	都市空間は基本構想であるので細かいことには言及しないが、今後もう少し細かく決めていくときに、地域ごとの特徴、それぞれの課題を見つけて、地域ごとの展望が見えるような書き方をしていただきたい。	各地域の特徴等については、今後、基本計画の中でまとめていくなど検討を進めます。	—	

No.	区分	委員 【※】審 議会資 料では 非公表	御意見の要旨	基本構想(素案)【H29.4.5版】への反映状況等		備考
					反映箇所	
8	大綱2	白石 委員	大綱2の(想定される施策)に、「自治会活動」を追加してもらいたい。	自治会活動に関する施策については、大綱1【人権・市民自治】に含まれるものと想定しています。	—	
9		野田 委員	子育てと教育を一体と考えるのは、時間の経過の中でつながっていくものであって、ひとつのものとは思えない。	「乳幼児期、学齢期、青少年期という一連の過程を連続的に捉え、大人への過程として育んでいく観点から、子育てと教育を時系列で捉えるのではなく並列に考えているものである」(第4回審議会)という御意見を踏まえ、修正等は行っていません。	—	
10	大綱4	野田 委員	学校教育と生涯学習が文章の中で混在してしまっていると感じる。もう少し学校教育と生涯学習をきちんと分ける形で文章を構成できないか。	「大綱4の1文目では「子育て・教育環境の充実」として学校教育を、2文目で「また、すべての市民が生涯にわたって学べる環境を整える」として生涯学習を、「また」で明確に区別する形でまとめているものである」(第4回審議会)という御意見を踏まえ、修正等は行っていません。	—	
11		上垣 委員	子どもの権利条約を踏まえるのであれば、「子どもの育ちを尊重する」という記載ではなく「子どもの権利を尊重する」とする方が良いと思うので、議論いただきたい。	「「すべての子どもの育ち」の「すべて」の中に、身体的、社会的など様々なハンディキャップを持つ子どもを含め、すべての育ちを尊重する意味を含めており、実質的にはすべての子どもの権利が保障されることを想定した表記である」(第4回審議会)という御意見を踏まえ、修正等は行っていません。	—	
12	大綱5	五十 川 委員	環境の理念について、環境配慮型の生活スタイルに市民を導くような形の記述や、市の市民サービス全般において、常に環境に配慮するというような視点が出せないか。	基本構想については、今後の取組の大きな方向性を示し、各分野における課題と取り組むべき施策については基本計画等で検討します。	—	

No.	区分	委員 【※】審 議会資 料では 非公表	御意見の要旨	基本構想(素案)【H29.4.5版】への反映状況等		備考
					反映箇所	
13	大綱7	倉沢委員	地域経済は、地方都市のど真ん中の課題であり、産業振興条例をきちんと明記して、地域経済の発展を図るということを書くほうがいいのでは。	関連法や関連条例等については基本計画等で掲載することを検討します。	—	
14	序論	澤田委員	P5の図表Ⅱ-1に、移転予定の国立循環器病研究センターが示されている。同じく移転予定の市民病院も示してはどうか。	図表に、理化学研究所及び移転予定の市民病院を記載します。	P.5 図表Ⅱ-1	
15		野田委員	P5の本文中に理化学研究所について記載があり、図表Ⅱ-1に示したほうがわかりやすい。また、移転予定の市民病院についても図表に示したほうがよい。			
16		馬場委員	P2「Ⅰ.策定の趣旨」の第3段落において、「成熟社会」の文言がなくなっている。成長社会から成熟社会へというのはキーワードであるので、残してほしい。			「成熟社会」の文言を盛り込むことについて検討しましたが、策定の趣旨を市民に分かりやすく伝える観点から、また、P2「Ⅰ.策定の趣旨」の第3段落「そのような時代の変化の中で」の文言に成長社会から成熟社会への移行も含むものと考え、修正等は行っておりません。

No.	区分	委員 【※】審 議会資 料では 非公表	御意見の要旨	基本構想(素案)【H29.4.5版】への反映状況等		備考
					反映箇所	
17	その他	五十川委員	市民団体リレーインタビューについては、市の活動の一端を担ってくれている市民活動や地域活動なので、今後、限られた時間であるが、市民自治の理念をきっちりと進められるように、もう少し意見聴取の努力をお願いしたい。	第4次総合計画の策定に当たっては、各分野で実施されたアンケート調査等について分析し基礎資料としてまとめ、その内容を踏まえて検討を進めてきたところですが、基礎資料としてまとめた調査分析に加え、市民団体が活動する中で考えておられる生の声を具体的にお聴きする趣旨から、市民団体リレーインタビューを実施し、可能な限り広範な団体から多くの御意見をいただけるよう努めながら進めてまいりました。なお、いただいた御意見については、今後、基本計画(素案)の策定を進めるうえで、庁内の策定委員会等での検討や総合計画審議会での議論の参考とします。市民団体へのアンケートの実施については、市民団体の活動目的や活動内容が多種多様な中で、アンケートにより具体的な御意見をお聴きすることは困難と考えますが、今後、市民ワークショップや市民説明会等でできる限り様々な御意見を丁寧にお聴きできるよう工夫に努めます。		
18		五十川委員	市民団体リレーインタビューについては、10団体は大変少ない。その中で反映していくのであれば、計画上にどのように反映するのか。反映していないところから見ても、この団体が選ばれたというのが納得できるような形で計画をするようお願いしたい。市民自治の理念をきっちりと進められるように、もう少し意見聴取の努力をお願いしたい。			
19		足立委員	市民団体リレーインタビューについて、10団体しか意見聴取しないというのは、もう少し努力していただきたい。3月末に区切らずとも、市民団体に求めるべき意見を再度整理して、いろんな手法があると思うので、市民団体の方々に投げかけをしていただきたい。			
20		倉沢委員	市内団体は、吹田市には1,000団体くらいの様々な団体があるので、団体へのアンケートなどを実施したら総合的なものになるのではないかと。			